

令和4年度復職支援研修
講義・演習コース実施報告

講義・演習コース1：令和4年6月9日（木）～6月10日（金）

1. 目的

就業を希望する者に対し、最近における看護知識・技術を修得させ、未就業看護職に再就職を促すとともに就業の継続支援を目的とする。

また、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、新たな看護業務の発生や看護職員の休業等で緊急の要請があった場合、協力可能な看護職が不安なく業務に従事できるようにする。

2. 開催日

講義・演習コース1：令和3年6月3日（木）～6月4日（金）

3. 開催場所

宮崎県看護等研修センター

4. プログラム

（講師敬称略）

回数	午前	午後
1日目	開講式 9:20 看護の動向 (9:30～10:30) 看護に関係する社会環境の変化や最近の看護に関する動き等を学ぶ 宮崎県ナースセンター長 小城一代 復職支援講座 (10:40～11:20) ・職場の選び方・履歴書の書き方・職務経歴書の書き方・面接の受け方 キャリアコンサルタント 荒川貴代美 自己紹介・意見交換 (11:20～12:00) 受講生間の交流を深め、再就業への意欲をさらに高める。	感染管理 (13:00～15:30) 感染の知識を深め、正しい感染予防の実際を学ぶ。感染予防の基本的技術を習得する。個人防護具の着脱の演習。新型コロナウイルス感染症対応を理解する。 講師：平和台病院 感染管理認定看護師 柳原由美子 ナースセンター登録の支援（希望者のみ）
2日目	フィジカルアセスメント (9:30～12:00) 患者の状態から緊急性の有無を明確に判断・把握し、必要とされる看護ケアへつなげることー看護観察から判断まで（講義・演習） 講師：宮崎大学医学部附属病院 小児救急看護認定看護師 野崎久美	医療安全研修 (13:00～15:30) 身近に起こりうる医療事故について知り、予防策について学ぶ。新型コロナウイルス感染症対応を理解する。 講師：川崎伸子 (元宮崎江南病院 副看護部長・医療安全管理者) 研修の振り返り (15:30～16:00) ラインチャートを使って

5. 受講者の状況

① 受講者：8名（未就業者 8名）

② 取得看護免許

保健師 1名 看護師 6名 准看護師 1名

③ 年齢：26～56歳（平均 43.8歳）

年代	受講生数	構成比
～29歳	1	12%
30～39歳	2	25%
40～49歳	2	25%
50～59歳	3	38%
60歳以上	0	10%

④ 看護職経験年数：3年～18年（平均10.8年）

経験年数	受講生数	構成比
1年未満	0	0%
1～5年未満	1	12%
5～10年未満	3	38%
10～20年未満	4	50%
20年以上	0	0%

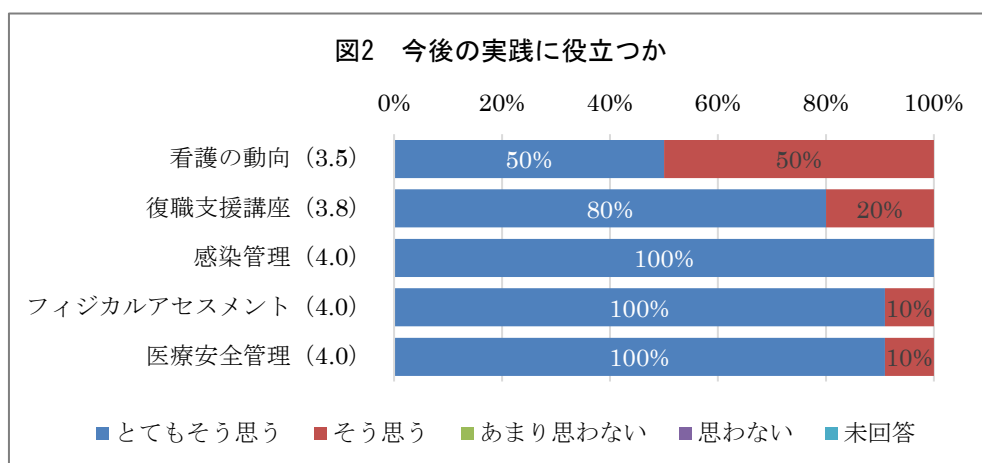
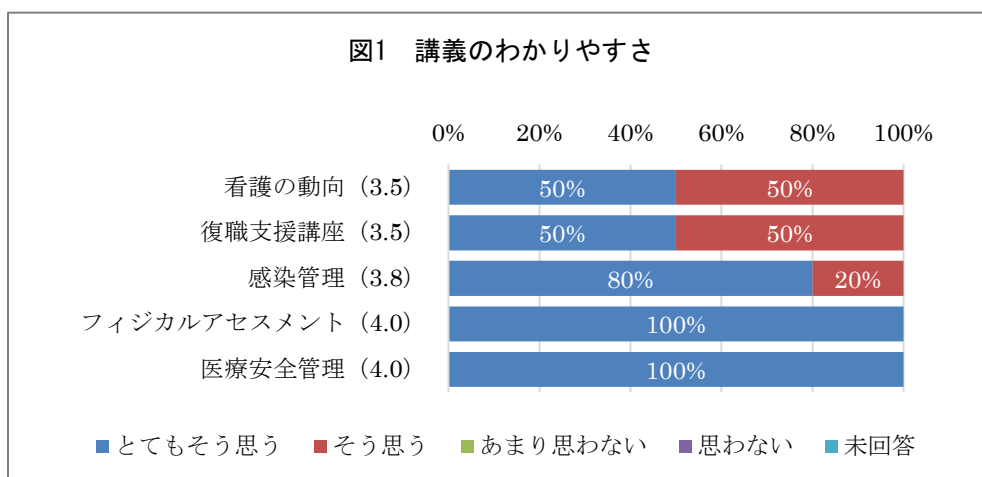
⑤ 未就業者8名の最終離職(または免許取得)から受講までの期間(ブランク期間)
0.5年～15年（平均5.2年）

ブランク期間	受講生数	構成比
1年未満	1	12%
1～5年未満	5	63%
5～10年未満	0	0%
10～20年未満	2	25%
20年以上	0	0%

6. 結果

各講義について、＜理解度（わかりやすさ）＞＜今後の実践に役立つか＞について4段階評価尺度と自由記述方式によるアンケート結果で示した。

1) 各講義のアンケート結果



2) 自己紹介・意見交換

(1) 内容

① 目標

受講生間の交流を深め、再就業への意欲をさらに高める

② 内容

- ・ ライフラインチャートを活用し過去の振り返りと今後について考える
- ・ アイスブレイクと受講生自己紹介
- ・ 意見交換

3) 受講しての感想

- ・ 前からあったらうれしかった。皆さんが(受講生)一生懸命なので私も頑張ろうと思った。
- ・ 研修に参加する前は不安があったが、復職する上で気を付けることや感染対策の実際を学ぶことができてよかった。
- ・ 復職にあたり基本的なことなので実行できると思った。現在の濃厚接触者の定義がわかった。
- ・ 勉強になった。若いころの頑張る気持ちが思い出された。
- ・ 勉強することの大切さ。
- ・ フィジカルアセスメントについては新人以外ではなかなか聞きづらいので改めて振り返り・学び直しになりよかった。医療安全についても今日の学びを忘れないように学び続けたい。
- ・ 看護をする上で大切なフィジカルアセスメントについて学ぶことができ良かった。知識・技術も自分で足りないと思ったのもう一度勉強したいと思った。患者・家族そして自分を守るためにも医療事故にしっかり向き合っていきたいと思った。
- ・ 今後役に立つと思った。復職支援としては十分な内容で有意義だった。
- ・ 自分自身の知識の見直しや新型コロナ感染症のリスク、医療事故に対しての意識を再度考える良い機会になった。

4) 取り入れてほしい講義

- ・ 人工呼吸器の取り扱い
- ・ 褥瘡の処置と評価

7. まとめ

今年度は、新型コロナウイルス感染症の対応についても研修プログラムに追加した。実技や演習も感染対策を行いながら実施した。

広報は、情報誌、新聞、市町村広報誌、ハローワーク等で行い、研修の申込は10名以上であったが体調不良等に伴い8名の参加となった。

研修内容については、アンケートの結果のとおり満足度の高いものとなった。演習をすることで感染管理や个人防护具の着脱についても理解が深まっていた。

受講者は参加することを決心し研修に申し込み、会場に足を運ぶこと自体にも不安を感じている。その不安な気持ちに寄り添いながら受講者の状況に合わせ就業を支援していきたい。

研修の様子 感染管理 個人防護具の着脱



フィジカルアセスメント 呼吸音の聴取



医療安全管理 KYT のグループワーク

